

QUESTORY'S MESSAGE

問われ続けているのは、 物事の本質に光を当てること



震災による日本経済への影響は不可避

東北地方太平洋沖で起きた大地震から 2 週間が経ちました。被災地ではまだ大変な困難が続いています。避難所での生活は肉体的にも精神的にもぎりぎりの状態ではないかと思われまます。マスコミ報道は被災地の現状と大きな懸念材料の福島原子力発電所の問題に集中していますが、震災による経済へのダメージも相当大きなものになると予想されます。

自動車、電機、鉄鋼などの幅広い分野で生産が止まったり、縮小しています。さらに急激な円高も日本経済に暗い影を落としています。現在の状況が長期化すれば、企業の生産拠点の海外移転に拍車がかかる可能性もあります。当然、国内の雇用に対する不安も広がります。学生の就職活動も延期や取りやめなどの影響が出ています。

福島の原子力発電所はご承知の通りですが、各地の発電所も被災し、電力量が大きく落ち込んでいます。電力やガソリン不足により通常業務に支障が出ている企業が増えています。節電や計画停電の影響で業務を早く切り上げざるを得ません。商店の一時閉店や営業時間の短縮化も目立ちます。各種のイベントや催事などの自粛もしばらく続きそうです。

目の前の仕事にさらに全力で取り組むこと

どうしてもネガティブな面に目が行きがちですが、いまこそ日本の国民がひとつになり、被災地の救援と復興に向けて力を合わせる時期であることは変わりません。被災地の状況を考えて心が痛みますが、絶望から希望に向けての動きが着実に始まりつつあります。それが人間の持っている本来の力なのだと思います。

具体的に私たちは何をしたらいいのでしょうか?自問自答の末、何も出来ないことのむなしさにとられる方も少なくありません。しかし、目の前の不安にさいなまれることから何も生まれません。少々我慢が要りますが、事態は必ずよくなります。こういう時だからこそ、出来るだけ長い時間軸で物事をとらえることが必要なのです。

個人も企業も組織も、自分の持ち場を確認し、目の前の仕事にいままで以上に全力を挙げて取り組むことが一番重要です。被災していない人たちが、経済を活性化させることが復興への支えとなるはずで。弊社では限られた時間の中で、いつもの倍の仕事をやろうと確認しています(仕事の性格上、量的という意味ではなく、質的な面が強いのですが)。

物事の本質に光を当てることの重要性

インフラや仮設住宅などはもちろん早急に取りかからなくてはなりませんが、大事なものは、ただの再生ではなく、“新生”という視点だと思います。真の幸せとは何か、本当に価値ある生き方(働き方)とは何か、人々の絆とは何か……こう言った本質的な問題をご自分の目の前の仕事を通じて考える機会が与えられているということです。

天災、人災を問わず、良くても悪くても、破壊と創造を繰り返してきたのが私たち人類の歴史です。その繰り返しの中で常に問われ続けてきたのは、“物事の本質に光を当てること”でした。これが新しい時代を創り上げるきっかけとなってきたのです。企業であれば、その問いは“企業は何のために存在するのか”とすることになります。

弊社もそうですが、この3月期に決算を迎える企業が少なくありません。4月からの新年度計画の立案をすでに終えようとしているところも多いと思います。しかし、もう一度、物事の本質を深く考え、計画を見つめ直す必要性を強く感じます。業種や規模の別なく、自社が果たすべき役割はどこにあるのかを問い直さざるを得ません。

いま問われているのは、企業の存在価値

今月2日に開催いたしました「第23回ブランディング・セミナー」でも述べましたが、“企業の存在価値は社会に貢献すること”です。一つひとつの企業に“社会の中で果たす役割”があります。しかし、頭では分かっているが忙しい日々の業務の中では流されてしまうのも事実です。企業の本質こそが、いま問われていることではないでしょうか。

企業活動は利益を上げることという考えもあります。もちろん、企業を維持するためには売上や利益は不可欠です。しかし、売上や利益が企業活動の目的ではありません。ただし、社会に貢献するために利益が必要です。利益がなければ続きません。“社会に貢献した結果の対価として利益を得ることが出来る”と考えた方がわかりやすいかもしれません。

利益は社会に貢献するという企業の目的を達成するための手段です。しかし、手段が目的になってしまうとおかしなことになります。いまの政治の世界も目的と手段がこんがらがり、奇妙なねじれを起こしています。繰り返しになりますが、いまこそ“物事の本質に光を当てること”が重要です。そうでなければ、たくさんの犠牲者の供養になりません。